

Library News

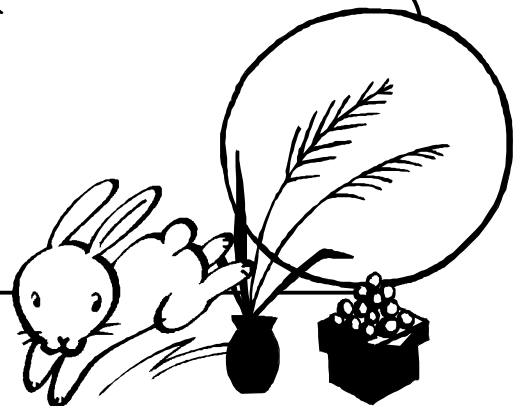


京教図書館 News

2009
9

今月のトピック

- 私のすすめるこの1冊
 今月は、音楽科・大澤弘之先生に『ベートーヴェン交響曲全集』(CD)をご紹介します！
- 図書館からの報告
 春の論文収集法講座について
- 論のくちび理のむすび
 今月は、社会科学科・荻野雄先生の論文から抜粋しています！



<図書館開館スケジュール>

★ 9 月 から 通常 開 館 時 間 に 戻 り ます ★

夏期休業中の長期貸出は 10 月 5 日(月) が返却期限日です。
 忘れずに返却しましょう！

<開館時間>

平日 9:00~21:00
 土曜 9:00~17:00
 日祝 閉館(CLOSED)

9

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
			1	2	整	3	4	5					
				休館								~17:00	
6	7	8	9	10	11	12						~17:00	
休館													
13	14	15	16	17	18	19						~17:00	
休館													
20	21	22	23	24	25	26						~17:00	
休館	休館	休館	休館										
27	28	29	30										
休館													

10

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
								1	2	3			
												~17:00	
4	5	6	7	整	8	9	10					~17:00	
休館				休館									
11	12	祝	13	14	15	16	17					~17:00	
休館	休館												
18	19	20	21	22	23	24						~17:00	
休館													
25	26	27	28	29	30	31						~17:00	
休館													

※毎月第1水曜日は館内整理のため休館です

※閉館時に図書を返す場合は、図書館入口左の返却ポストに入れておいて下さい。

(視聴覚資料は破損の恐れがありますので、返却ポストには入れないで下さい)

私のすすめるこの1冊

大澤 弘之（音楽科 教授）

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮 ベルリンフィルハーモニー

「ベートーヴェン交響曲全集」（発行：ドイツ・グラモフォン）

いつのころからか読書をしなくなりました。もちろん作曲や音楽教育の専門書は仕事として読みますし、さすがに最近ではインターネットを利用することが多くなりましたが、それでもいろんな本で調べ物もします。いわゆる「文芸書」と呼ばれるものをまったくではありませんが以前のように読まなくなったのです。20歳前後の頃は少しカッコつけて「文芸春秋」、そして松本清張や司馬遼太郎などといったその当時の人気作家、家にあった芥川龍之介、太宰治、三島由紀夫などが含まれていた数十巻の近代文学全集、それらをむさぼるように読んでいました。一つの作品を読むと全く異なった一つの人生を体験したような気がし、その疑似体験は血や肉となって私のその後の人生に直接に反映するように感じていました。そしてそのことは当時の私には大きな充実感を与えるものでした。

しかし近年、私の読書はただストーリーを追って楽しんでいるだけのようなのです。どんなに感動的で立派な（時には鮮烈な）生き方に触れても以前のように私自身の体験に置き換えることはできなくなり、これまでの生き方を悔い改め、より良い生き方をすることにつなげることができなくなってしまったのです。そのことによってなのでしょう、かつてのような充実感は得られなくなりだんだん読書をしなくなってしまったのです。

この「私のすすめるこの1冊……」に何を書こうか随分迷いました。私が学生時代に感銘を受けた作品をともしましたが、今20歳前後の学生諸君の心にも同じように響くのでしょうか？またいわゆる不朽の名作の中より、夏目漱石の「こころ」について書いてみようかとも思いましたが、このような名作には多くの立派な書評があり私などが拙い文章を書くことに意味があるとは到底思えませんでした。

そのような訳で、困り果てた挙句「私のすすめるこの1冊……」の番外編として（松良図書館長におことわりしたうえで）本ではなく上掲のCDをお薦めすることにしました。

作曲というと一般的にはメロディーとその伴奏を書くことと思われまふ。もちろんそれは非常に大切なことなのですが、交響曲ほどの規模になると作曲という行為はまるで建造物を構築することのようになります。メロディーとその伴奏だけではなく、どのようにベートーヴェンが構築したのかという観点から全9曲を（聞き流すのではなく）気持ちを集中して聴くことをお薦めします。作品全体の形式と構成・楽器法・クライマックスの作り方・緩急のバランス・低音の扱い等々、音楽に対する皆さんの概念はきっと大きく変化することと思ひます。そしてその後はたとえ異なったジャンルの音楽であっても、それまでとはまったく違った聴き方ができると同時に、これまで感じられなかった魅力を数多く発見するようになることと思ひます。

ベートーヴェン交響曲全集は現在何十種ものCDが販売されています。そのなかからカラヤン（1908～1989）指揮によるものをお薦めしたいと思ひます。カラヤンはこの全集を生涯に4回録音し、そのどれもが完璧な演奏です。ただ1回目のものは音質にやや問題があり、また最後の録音は演奏表現が余りにも華美に過ぎるようには私には思ひます。1960年代と70年代に録音した2回目か3回目のいずれかのものが最良かと思ひます。先日タワーレコードの店先で見ましたら輸入版で6枚組3600円程度でした。かつて1枚2000円余りだった頃を知っていますので随分安くなったものだと驚いてしまいます。図書館で聴くだけでなく、ぜひ皆さんの手許にも揃えていただきたい。きっと生涯座右の銘盤になることと思ひます。

※ 現在購読手続き中

【報告】春の論文検索収集法講座が終了いたしました！

4～7月にかけて図書館内で開催しておりました論文検索収集法講座に、41名の方々にご参加くださいました。忙しい中でのご来館、誠にありがとうございました！

10月以降も開催予定ですので、興味のある方はぜひご参加ください。開催情報は、図書館ニュースや学内メールなどで、順次お伝えする予定です。

論文検索収集法講座って？

学術雑誌に掲載された論文は、授業の勉強や卒業論文・修士論文の研究にかかせない存在です。しかし、蔵書検索 OPAC では雑誌そのものの情報や配置場所がわかっても、その中身の論文までは探すことができません。そこで登場するのが論文情報から検索できるデータベースです。今回の論文検索収集法講座では、和雑誌論文のデータベース CiNii（サイニー）を中心に、テーマから論文を探し、掲載された雑誌を特定して入手するまでの流れを体験してもらいました。

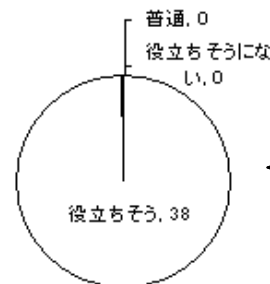
アンケート結果

回答人数：38名/41名
ご協力ありがとうございました！

全体的なレベルについて



内容について



なんと、回答者全員が、内容について「役立ちそう」と答えています！

図書館について



図書館職員の説明について



論文検索収集法講座、ここが気になる！

- Q. 学部生ですが、卒業論文のテーマがはっきりしていなくても大丈夫ですか？
A. 大丈夫です。卒業論文に向けての準備だけでなく、普段のレポートにも活用できます！
- Q. 授業と重なってしまって、春の講座は受けられなかったのですが…
A. 事前に申込みをすれば、開催予定日時以外でも受講が可能です。ご相談ください。
1人で講座を受けると、質問や自分の研究テーマの相談もしやすい、といったメリットも！

**検索のコツを知れば、図書館はもっと使いやすくなります。
興味のある方は、ぜひ秋の論文検索収集法講座にお越しください！**

沈黙の共同体から語りの協同体へ ―戦前期大熊信行の思想―

大熊信行(1893~1977)は、現在でもその言説が考察の対象として取り上げられることの多い、近代日本の思想上特異な位置を占める経済学者である。今日大熊の名は、国家総動員体制の理論的支柱の一人であったこと、そして敗戦後他の多くの知識人とは違い、戦中の自身の言説に正面から向き合いそれを問い直したことによって記憶されている。しかし彼は、時局に実践的に関与していく1937年以前に既に、経済学的研究およびそれと並行して展開していた文学論や短歌論によって、広く知られた存在であった。これらの領域で彼が残した作品は、先駆的な着眼を含んだそれ自体において注目すべき業績であるばかりではなく、純粋な経済研究では後景に退いている社会主義に対する共感を明確に浮かび上がらせているがゆえに、戦後の大熊の主張を検証し、敗戦を挟んだ彼の思想の連続と不連続を見極める上でも貴重な手掛かりを与えてくれている。そこで本稿では、経済理論から文学論にまで到る、戦前期の大熊の思想の全体像の描出を試みた。

戦前期における大熊の多岐に渡る思考を動かしていたのは、近代における労働の歪みに対する批判意識であった。ラスキンとモリスの研究を通じてこの問題に目覚めた大熊は、それを独自の角度から考えるため一端抽象的な経済学的研究に沈潜し、経済世界の本質法則として配分均衡の理念(配分原理)を掴み出した。大熊は、この配分法則に基づいて、近代の労働の問題性を社会性の欠如として捉え直す。そして歌人でもあった彼は、こうした視座から独特の近代文学批判をも展開した。大熊は複製技術が文学の性格に与えた影響に着目し、近代文学を黙読に偏した個人主義的な文学であると指摘して、そのうえで「語り」の次元を回復することによって文学の社会性を取り戻そうと試みたのである。近代の商品経済体制に批判的であった大熊は、それを超えた「新しい社会」のための文学を模索したのであるが、しかし同時代のいわゆるプロレタリア文学運動とは違って、彼は常に「日本的なもの」を視野に入れていた。大熊にとって「語ること」の復権は、近代において抑圧されている原日本語の再生をも意味していた。彼の社会主義志向に潜在していたこうした日本主義的な志向が、やがて時局の変化と共に表面化し、大熊を体制の側に押し流していくことになった。

全文は、<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/kiyou/kiyouindex.html>(京都教育大学紀要)にてご覧いただけます。
第114号(平成21年3月)を選択し、PDFをクリックしてください。

ちょっとブレイク
9月の言葉

～ クラシック音楽の日 ～

9月4日は「ク(9)ラシ(4)ック」の語呂合わせから、「クラシック音楽の日」と制定されました。今月の「私のすずめるこの1冊」はクラシック音楽ですが、京教大の図書館にはこの他にもクラシック音楽に関するさまざまな図書・楽譜・CDなどがあります。ぜひご利用下さい。

<探している楽譜が見つからない、そんな時は！>

楽譜は特別な場所に別置しているわけではありませんが、サイズによっては大型図書の扱いになります。OPACで配置場所が「大型 南館2階」になっている場合は、南館奥の大型図書コーナーを探してください。

- 蔵書検索 OPAC はこちらから
<http://tosh02.kyokyo-u.ac.jp/>
- 京都教育大学附属図書館ホームページはこちら
<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

京教図書館 News No. 107 (2009年9月号)
編集発行：京都教育大学附属図書館
発行日：平成21年9月1日
内容に関するお問い合わせ先：
附属図書館 (内線8179)

